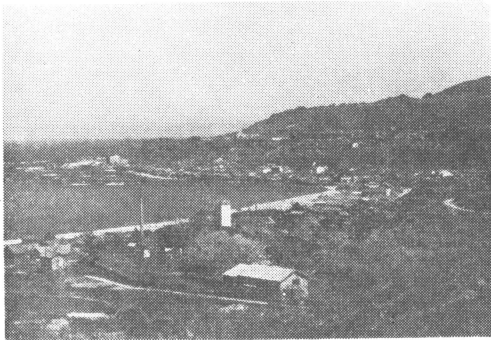


地方だより

相川 測候所

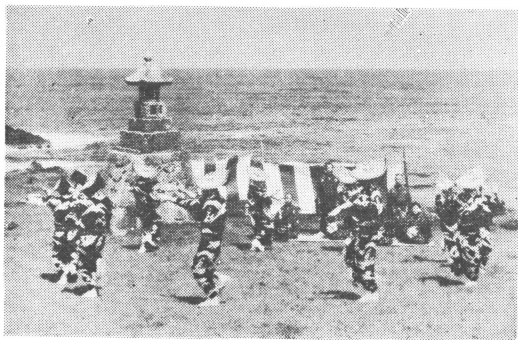


庁舎全景

東管の北辺の守りである当所は、 ϕ : 38° 01' N, λ : 138° 15' E, 水銀気圧計の象牙針の尖端の高さ(標高): 35.8 m 通風計の地上の高さ: 13.7 m 創立1911年(明治44年)で来年の4月1日は満50年というわけです。

佐渡ガ島は、新潟県の西方、角田崎の沖合 31 km に位し、日本海の最大島である。東西 32.57 km 南北58.76 km 周囲 217 km 面積 857.235 km² で人口は 12万6千と称しており、1市(両津)4町(相川・佐和田・真野・小木)5村(金井・新穂・畑野・赤泊・羽茂)からなりたっている。11月3日の佳き日を期して村一町に金井・畑野がなることになっており、一方南部の3カ町村一小木町・赤泊・羽茂の両村一の合併問題がくすぶっているのが昨今の島の状況です。

聞くと見るとでは、大違いということが、先ず両津港に着いた時に感ずます。島の表玄関である両津から島の奥座敷相川まで新潟交通のバスで80分、かかります。途中加茂湖や島第一の高峰金北山(1173.4 m)の山頂に見える radar を右手に眺め、右手は小佐渡山脈の大地山(645.5 m)の連山を見て車中の人となって国仲平野を30~40 km/hour で走る時は、誰しも島という感じより本



相川 おけさ

土のどこかの山の中を行く感じであるとは筆者一人の感じだけではないことはたしかです。

産業の主位を占めるものは農業で、住民の3/4が農家です。林野面積は約6万6千町歩で、そのうち竹林がおよそ1千町歩あって、木炭200万貫、竹林20万丸を生産している。牧畜では、佐渡牛が有名で、形は小さいが山間の使役に堪え、肉牛としても神戸牛を凌ぐとも劣らないということです。四面海にかこまれているので、水産方面も盛んです。鉱業は、「佐渡の金山」として慶長6年相川の大鉱脈を発見してから、一時は人口10万以上に栄えたと伝えられ、今も当時の町名が70カ所あまり残っている。明治29年鉱山は三菱に払下げになり、さらに昭和27年、大規模の縮少をし、この鉱山の町の表情は全く「斜陽」の町となっているが、しかし行政のもとに於てある下越支庁佐渡分室の所在地であり、また官署の町として佐渡の首都を占めている。人口20,406(昭30国勢調



航空自衛隊レーダー

査)。とにかく、慶長以来350年の歴史と伝統をもった「お釜山弥栄」を祝って毎年7月13~15日盛大に行なわれる釜山祭は「おけさ」と共に有名です、名物「おけさ流し」は町を挙げて老いも若きも男も女も、三味や笛・太鼓に思い思いの仮装をこらし、あるいは山車を練って文字どおり唄に明け踊りにふけてゆくさまは、一寸他に類を見ないようです。——こんな時に天気予報を外そうものなら、まさしく「百日の鉄砲尻一つ」というわけです。

詩の国、歌の国であり歴史をたどりながら佐渡ガ島の観光資源をさぐるうとすると、どうしても2泊3日は最低かかります。こと程さように島は大きいです。——笑い話に佐渡の高津で野球をしてホームランを打ったらボールが真野湾に入ったとか。——イヤハヤドウモ。

また、美人の産地であって、新徳美人海府美人という伝承があるだけでも、心たのしきものがある。

(写真と文、府中記)